

じろざい方言」を語る。



隔月で連載の「西三河の方言」は平成5年3月号から 連載を始め、令和5年3月号で丸30年、第200回を迎え ました。

そこで、今回は「西三河の方言」連載にまつわるエピソードなどを筆者の「じろざ」さんに語っていただき、これまで伝えきれなかった「西三河の方言」の魅力に迫ります。



広報こうた平成5年3月号

連載してきたからこそ分かったこと それが「<u>西三河の方言」の魅力だった</u>



たと地元に伝わる牧野次郎左衛 寺門徒として参陣し、功を立て めた、いわゆる石山合戦に本願 は、織田信長が石山本願寺を攻 場区在住、60歳。筆名「じろざ」 えた令和5年3月定年退職。野 執筆を開始。連載200回を迎 報こうたに「西三河の方言」の

意味は「やさしい」「穏やか」、語源はやわらかな調子の言葉を 意味する「軟語(なんご)」ですが、言葉(口調)だけでなく、 人の態度や性格についても「なんご」と言います。

こうして始まった <u>世</u> 河の方言は

の「がれ」になったと教わりました。 の意味でこの地方で言う「○○ちゃんがれ」 行きにけり」の「がり」が、「○○ちゃんち」 然草に出てきた「京なるくすしのがり、ゐて 私が高校生の時、国語の授業で、古典の徒

庁。勤務の傍ら平成5年3月広

昭和6年4月幸田町役場に入

りませんでしたが、古典には興味がありま を知って興味を持ったと思います。 ようで、あの時、方言にも歴史があること した。古いもの、歴史があるものが好きな 私は、歴史が好きで、国語は好きではあ

5年3月号から紙面を割いていただくこと 言を一つ一つ増やしていきました。このこ プロで「西三河の方言辞典」をつくり、方 に関する書籍を集め、買ったばかりのワー になりました。 とを当時の広報担当に伝えたところ、平成 役場に入って、方言辞典や方言集、

ので、平成9年2月号から隔月の連載にし 推敲に入るなど、休む間もない状態でした の連載で、紙面が刷り上がる前にその次の めて紹介することにしました。当初は毎月 ない。そこで、毎回1語ずつ旬な話題に絡 り出しても、長くは続かないし、面白くも 取り出していこうと考えましたが、 てもらいました。 二河の方言辞典」から毎回いくつか方言を 連載が決まり、構成はどうしようか。「西 ただ取

達成感が

ヤはり連載は大変

でも仕上がった時の

原稿締切が迫ってから、「西三河の方言辞 らかじめ用意してあるわけではありません。

「西三河の方言」で紹介する方言は、

りますが、なにせ「西三河の方言」導入の らないとその気になれない性格のせいもあ 典」などから探します。 これは、 切羽詰ま

方言

掲載を諦めたものもあります。 肝心の、旬な話題に絡めることができず 章にできそうなら推敲していくのですが、 着き、掲載できました。こうして、その方 成12年1月号で紹介した「なんご」は、図 近ではインターネットを多用しますが、平 ていきます。「西三河の方言辞典」には、方 言の語源やそれに近いものが見つかり、文 書館の漢和辞典でやっと「軟語」にたどり 語源辞典といろいろ調べていくのです。 万言辞典や方言集、国語辞典や古語辞典、 言の意味ぐらいしか載せてありませんので、 詁題は旬が命、作り置きがきかないのです。 方言を選んだら、その方言を詳しく調べ

業の連続は、文章力も付けてくれたよう られた文字数に伝えたいことを収める作 な気がします とも表現しようがありません。また、限 がった紙面を手にした時の達成感は、なん でしたが、原稿が仕上がった時、刷り上 やはり、 「西三河の方言」の連載は大変

由緒正しい「文化財」方言は訛りではない

まい」が い」になったのです。 ですが、実はその逆、 では「せばい」と言います。これも「せ では「せまい」と読みますが、この地方 はありません。また、「狭い」は、 で古語であって現在のいわゆる標準語で えば訛りなのですが、「がり」は、 私も最初は、標準語の音が変化したも 訛りが方言だと思っていました。「が 「がれ」になったのも、 「せばい」になったと考えがち 「せばい」が「せま 訛りとい 標準語 あくま

のですが、「がり」が使われていた頃、「せ明治以降、東京の言葉を基に整備された標準語は、全国で通用する言語として

があるのです。 と言っていた当時は、京都が日本ばい」と言っていた当時は、京都を中の中心でした。京都で生まれた新しい言葉は、時間をかけて波紋のように地方になった。このような方言は、京都を中心としたドーナツ状に分布していることが多く、この地方の方言が、関西を飛ばして中国四国地方でも使われていることがあるのです。

「西三河の方言」の魅力だと思います。「西三河の方言」の魅力だと思います。これいっても過言ではないと思います。これいっても過言ではないと思います。これいっても過言ではないと思います。これいっても過言ではないと思います。市などで地らこそ分かったと思います。市などで地らこそ分かったと思います。市などで地らこそ分かったと思います。これいっても過言ではない言葉があるのも、標準語では言い表せない言葉があるのも、標準語では言い表せない言葉があるのも、「西三河の方言」の魅力だと思います。

一つの言葉から

意味は「もったいない」、語源は「疎(うと)ましい」ですが、

この「おとましい」には、神仏への畏敬の念、万物への感謝の

別々の言葉に

第5回の平成5年7月号に取り上げ、従しい」です。意味は「もったいない」で、生まれの祖母の口癖だったのが「おとま話していた言葉が根底にあります。明治話していた言葉が根底にあります。明治

心が込められています。

おとま

たと紹介しました。

たと紹介しました。

たと紹介しました。

たと紹介しました。

たと紹介しました。

には、もともと「恐ろしい」の意味もあり、ることにしたのです。この「疎ましい」であましい」であましい」であましい」であましい」だったことがあれせて「もったいない」の意味も紹介したと紹介しました。

方言といえば「てっくらかる」です。また、連載してきた中で印象に残る

魅力だと思います。

きて分かったことで、

「西三河の方言」の

るようになります。これも、連載をして

全く異なる、き起こし、き

別々の言葉として認識され

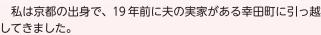
時の流れと場所の違いで多様な変化を引

音は多少似ていても、

意味は

ア惑いと驚きの「西三河の方言」 ~やさしさと楽しさを感じられる それが魅力~

里区在住 市川さん



こちらに来て夫の祖母と一緒に生活することになり、祖母との会話の中で戸惑うことも多かったです。「ずつない」「けんだるい」「ひずるい」などは、聞いたことがない言葉でしたので今でも印象深いです。

また、自分の子どもを「にいさん」「ねえさん」と呼ぶことに 驚きました。同時に、自分の子どもであっても敬意をもって呼ぶ 三河弁にやさしさを感じました。

私は「じゃん」「だら」「りん」を上手に使えませんが、子ども は普通に三河弁で育ちましたので、京都の実家に帰ると親戚も、 子どもの話す三河弁がかわいらしいと楽しんでもらえています。

息子は南部中学校の時、じろざさんが授業に来たと言っていましたし、私も「西三河の方言」を見て楽しんでいます。

やさしさと楽しさを感じられる。それが三河弁の魅力だと思います。

このように、もともと一つの言葉も、き立つような感動を覚えました。 したが、語源を突き止めた時には、浮似返る」だったのです。これは、平線り返る」だったのです。これは、平線り返る」ですが、語源を突き止めた時には、浮い返る」ですが、語源



例 はらが**ずつなく**てまーたべれん

「腹が<u>苦しく</u>てもう食べられない」という意味です。語源はなすすべがない意味の「術無(じゅつな)い」ですが、精神的に苦しい「せつない」意味では使いません。



例 ゆーひが**ひずるく**てよーみえん

「夕日が**まぶしく**てよく見えない」という意味です。 「ひずるしい」とも言い、「ひどるい」「ひどろい」 と言う地方もあるようです。





例 まっと<u>ちんちん</u>にわかしん

「もっと**熱く**沸かしなさい」という意味です。鉄瓶でお湯が沸いたときに発するチンチンという音から、その状態を端的に言い当てた方言です。



例 ほこ<u>じゅるい</u>でふんごむぞ

「そこ<u>ぬかるんでいる</u>からはまるぞ」という意味です。さらにぬかるんでいれば「じゅるじゅる」と言い、その状態を見事に言い当てた方言です。



AX (0564) 63・5139 □ (0564) 63・1111 (内線33・間合せ 企画政策課 政策グループ

み応えのあるものにし、奥が深い「西三河の 徒が選び、紹介文を書いて「南中方言辞典 平成30年11月に南部中学校で話をしたことが ではありませんが、抑揚など文字だけでは伝 あり、「西三河の方言」の筆者として講師に あります。これは、2年生の国語の授業で として一冊にまとめるというカリキュラムが **|講座| をやりたいと思っています ぺられませんので、ゆくゆくは「西三河の** 西三河の方言」の中から方言を一つずつ牛 ます。この連載も200回を超え、この |かれたのです。この体験に味を占めたわけ ただきます。回数は減っても、 次は11月号と、3カ月ごとの連載とさせ 隔月では「えらい」ので、次は8月号、 といっても、「西三河の方言」は続け 「西三河の方言」執筆につい 魅力もっと伝えていく奥が深い「西三河の方言」